

第6回倉敷市総合浸水対策推進協議会 議事概要

■ 日 時 令和6年3月28日 14:00 ~ 16:00

■ 場 所 本庁2階 206会議室

■ 出席者

【委員】(50音順)

磯打委員、片谷委員、神原委員、河野委員、小山委員、諏訪委員、西山委員、松井委員、山本委員

【事務局】

環境リサイクル局 : 河村参与、藤井次長

防災危機管理室 : 永野参事、藤山課長代理

浸水対策室 : 畑本室長、仲前次長、齋藤主任、柴北主任、西本副主任

■ 傍聴者 0人

■ 報道 0社

■ 次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 令和5年度の実績報告について

(2) 令和6年度の実施予定について

(3) 市民企画提案事業について

4 閉会

会議内容

1 開会

事務局 | それでは、ただいまより第6回倉敷市総合浸水対策推進協議会を開会いたします。本日は委員10名のうち、1名が所要により欠席となっておりますので、9名の方に御出席いただいております。倉敷市総合浸水対策の推進に関する条例第25条第2項により出席者数が過半数を満たしているため、会議は成立しております。

2 あいさつ

参 与 | 協議会の開催にあたりまして一言御挨拶を申し上げます。
皆さまには、御多用の中、本日の協議会への出席誠にありがとうございます。また、平素から本市の浸水対策条例に御尽力いただきまして、重ねて御礼申し上げます。さて、本年1月に能登半島を震源とし、最大深度7を記録した能登半島地震が発生し、現在、国や自治体、多くの団体やボランティアの方々が復興に携わっておられます。倉敷市としても多くの部署が支援をしている所ですが、下水道部署としても来月から職員を派遣して支援を行う予定となっております。今後30年以内に発生する確率が70～80%と言われている南海トラフ地震への対策も必要ですが、すでに被害が頻発化、顕在化している浸水被害も対策に取り組むべき喫緊の課題であると認識しています。本日の協議会では、基本計画策定後の振り返りや、計画に記載している取組の今年度における実績、来年度の予定などについて報告させていただきます。
倉敷市として、市、市民、事業者がそれぞれの役割を果たし、一体となって浸水対策を推進し、安全安心なまちづくりの実現に向け、取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き皆様方のお力添えを賜りますようお願いいたします。開催の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3 議事

会 長 | 冒頭、参与からお話がありましたが、能登半島で被災に遭った方々にお悔やみを申し上げますとともに、倉敷市としても支援していただいておりますので、この協議会としても1日も早い復興を願っていることを申し添えたいと思います。

(1) 令和5年度の実績報告について

事務局より、令和5年度の出来事を報告。

会 長 | 下水道のパネル展示のページの補足ですが、協議会の取り組みを記載させていただきました。また、ここで職員の方が内水についての模型を作っていて、協議会でもお披露目してもらいたいくらい好評でした。街の模型の上から水を落として、内水で

はというふうになんか水が溢れてきて、外水ではどうなるというのが良く分かる。これは自主製作されたのですか？

事務局 | 建築技術職の職員が趣味で協力してくれました。

会長 | パネルには、倉敷市下水道部のますたろうというマンホールのキャラクターを使っています。市でも皆様の活動を積極的に広報していただいています。イベントでパネルを展示したいとか模型を使いたいということがあれば、事務局へ貸し出しをお願いします。

事務局より、令和5年度の実績について、河川及び下水道等の整備に関する事項を説明。

委員 | 河川・下水道の整備のところで、市の取り組みとしては書いていないのかもしれませんが、真備緊急治水対策プロジェクトでは、年度末でハード対策が終わるということは、一つの大きな節目だったのではないかと思います。

委員 | 県としては、国の直轄事業と合わせて真備の3支川堤防の工事が完了し、平成30年7月豪雨と同じ程度の雨が降っても耐えうる安全性は確保できたのではないかと思います。

会長 | 会議の冒頭に能登半島の話が出ましたが、下水道の管が飛び上がっているのをテレビで見たり、水道の復旧が、もうどうしようもない状況となっています。下水道施設の耐震化はどうなっていますか？

事務局 | 下水道施設については粛々と進めています。御存知の通り耐震指針は地震が起こると基準が変わっていくので、今回は被害が大きいので、国土交通省でどう対応していくのかは考えていくと思いますが、現行基準での耐震化を目標を定めて進めています。

次長 | 能登半島地震を受けて、上水道下水道含めて耐震化が話題になりました。数値的な話でいきますと、下水道では全管路に対して約9割方、耐震化が進んでいる状況でございます。国の方で、下水道管でもいわゆる重要な幹線という位置づけがございます。その耐震化率が全国平均で確か50%程度という中で、本市では約9割方進んでいるという状況です。引き続き、管路処理場含めて耐震化を進めている状況です。

会長 | この協議会は浸水対策協議会で雨に対する災害なので、ここで地震の話をするのはどうかなと思いますが、実は私も今年に入って4回地震の講演に呼ばれました。雨の話する予定が、地震の話に変えて欲しいと予定が変わりました。

基本計画の改定の時に、耐震化の項目も入れてはどうですか。9割も進んでいるというアピールをしてもよいのでは？

副会長 | 耐震化というと地震対策となるので、BCPに絡めて機能維持という形で入れては？

会長 | これは次回改定の課題にしましょう。

もう1点、ハザードマップにはもう2種類があります。ため池と高潮のハザードマップです。これは基本計画には盛り込んでいない部分。市民に対してはネットでは見ることができるようになっていきます。次の改定の際にはこの2つのことも検討していただきたい。

事務局より、令和5年度の実績について、雨水流出抑制施設の設置の促進に関する事項を説明。

- | | |
|----------|---|
| 会 長 | 舗装を透水性にして土に水を染み込ませることで下水道の負担を軽くしようという取り組みですが、メンテナンスが大変です。どのようにメンテナンスをしていますか？ |
| 事 務 局 | メンテナンスというより、老朽化したらやり替えることになります。車が走らない歩道などを選定しています。 |
| 委 員 | 基本計画の75ページでは、指標がR2実績で1,720m、R7目標が4,700mとメートル単位になっていますが、今回の資料だと平方メートル単位で実績報告されています。目標に対しての進捗が分かりにくい。次ページの浸水対策の実施公園数も、基本計画では箇所の単位になっているところ、今回の資料だと平方メートルの単位となっています。他の公園でも実施しているのでしょうか？ |
| 事 務 局 | 基本計画に記載している指標は、倉敷市国土強靱化地域計画の指標です。それに対して、今回の資料は進捗の集計ではなく、実績の紹介として資料をまとめたので、こういう表現としています。 |
| 会 長 | 達成度を表現する時には単位を合わせるようにしてください。 |
| 防災危機管理 室 | 本日、有城の防災備蓄倉庫が完成検査を受検しました。デザインビルドで施工をした防災倉庫ですが、この地下にも水を貯留するということをしています。今回の資料ではこれはまだ反映されていませんが、市の方でも進めています。
また、先ほど議題にあった舗装についての補足ですが、舗装については排水性舗装と透水性舗装があります。排水性の舗装は、表層の舗装の下に水を通して側溝へ流します。透水性になると、地盤へ水を染み込ませるので、水を通すフィルター層に砂が詰まると染み込みにくくなります。そのため、車道には排水性舗装を採用しています。 |
| 会 長 | 開発行為等における雨水排水計画の協議は開発業者へ浸透していますか？ |
| 事 務 局 | 過去の開発行為の件数から想定していた数字に近い件数の実績となっています。どの企業もコンプライアンスを重視しているようで、きちんと協議に来てくれますし、お金が掛かる事であるにもかかわらず、全くクレームが来ていません。ありがたいことに皆さん積極的に協力してくれています。 |
| 会 長 | 貯留槽はどこに増えていますか？学校はどうですか？ |

事務局 | 公共事業という視点では色々と考えています。学校施設の浸水対策の強化はテーマとなっているので、そのテーマに沿って教育関係の部署が事業を進めていくものと思っております。その際には浸水対策室が持っているシミュレーション結果を用いた解析を行っていくことになると思います。

会長 | 意識改革も必要です。すべての学校に雨水タンクを配布するというのは考えられませんか？

事務局 | 岡山市が行っていることでもあるので、また内部で検討します。現在は、各種イベントで紹介をしています。見て終わりとなっているので、小学校で物珍しきを見て、家に帰って家族に広げてもらうというやり方はあると思います。

副会長 | 一昨年、研究室の学生が、高松市内の雨水タンクの助成制度に関する事で、住民の皆さんへアンケート調査をしました。設置した理由については基本的にはロコミでしたので、学校でやっていただくという今の議論はすごく大事です。合わせて、設置された方がどう感じたのかを広報の時に一言添える事がすごく大事ななと思いました。また、阻害要因についてのアンケートでは、地域特性があつて、街部では、雨水タンクを庭に置くとなると場所を取るからという話がありました。街部以外では、費用が掛かるからと回答されています。助成制度の内容を見ると、それほどお金が掛かる物ではなく、あくまでもイメージで言われているところがあるので、助成制度の周知は非常に大事です。また、雨水利用効果への理解が支払い意思額に最も相関があつたので、学校を通じて普及啓発をする事は非常に効果的だと思いました。

令和5年度実績の32件が、どこの地域で設置されてるかは分かると思うので、それを積み重ねて、空白地帯で積極的に広報をしていくと、ロコミでも広がっていくのではないかと思います。

会長 | 次の戦略に繋がるかもしれないので確認しましょう。

事務局 | 過去全てではないですが、設置場所はGISで管理しているので確認します。

次長 | 順番が前後しますが、高潮についてはハザードマップの紹介も含めて基本計画書の31ページから32ページでコラムという形で紹介しています。

会長 | 倉敷市は高潮で10メートル浸水するマップでしたよね？逃げようがないレベルと記憶しています。

防災危機管理室 | 想定最大規模L2の高潮ハザードマップでは、高梁川の堤防も切れているため洪水より広い範囲となっています。H16台風の規模の降雨が最も倉敷市に悪影響を与えるコースで作成したものになります。高梁川の堤防が切れていない状態が、L1のハザードマップとなっています。

会長 | Lというのはレベルのことです。レベル1とレベル2があります。水防法の法律が変わって、L2という100年に1度の雨も考慮するようになっています。河川は両方

公開しています。内水はL2は公開していますか？

事務局 | 公開しています。

会長 | 東日本大震災をきっかけに、市民へはL1もL2も両方公開して、市民が自助、共助をどのように考えていくかという取り組みが、防災・減災の最先端となっています。これに関するハード対策があれば取り入れていただきたい。

事務局 | 補足になりますが、今年度、倉敷市で高潮のハード対策という、一番大きい事業は小田川合流点付替え事業になります。これは市としては、基本計画の中でいう国・県への要望事項のため今回紹介していませんでした。護岸についても県の所有になっている所が多く、市でできる取り組みが少ないため、今回紹介していませんでした。今回いただいた御意見を元に、再度考えます。

事務局より、令和5年度の実績について、森林、農地、緑地等が有する保水及び遊水の機能の保持に関する事項を説明。

防災危機管理室より、令和5年度の実績について、浸水被害に対する予防に関する事項を説明。

会長 | 民有地緑化助成制度について、チラシはありますか？

事務局 | 公園緑地課が窓口になっています。またホームページにも掲載されています。

次長 | 倉敷市総合浸水対策基本計画の資料編29ページにチラシを掲載しています。

会長 | これについても、16件の実績について、だれがどこにどのような申請をしているのか機会があれば追跡したいと思います。水防意識啓発のアンケートは、次年度も引き続き実施していきますか？

防災危機管理室 | 引き続き実施する予定です。

会長 | 次回の実施前に、委員の皆様から質問を募って、協議会の取り組みにフィードバックしたいと思っています。私は、ハザードマップを見たことがあるか聞いてみたい。

防災危機管理室 | それについては出前講座で聞いています。見たことがあるとの答えが30%程度で、家に置いてあるのが20%程度です。携帯で見ている人は、今は5%行かない。

会長 | 見ない人についても、今後の更新を考えていくためにも理由の分析をかけてみたい。分からないからなのか、読みづらいからなのか、意識がないからなのか。

委員 | 年代別、性別でも備えが違っています。若いお母さんは、子供の宿題で防災頭巾を作ったりということもあります。高齢者の方々は防災アプリではなくニュースで防災情報を見ているなど、年代と性別はクリアにして今後の啓発に使うのが良いと思います。雨水タンクは女性の方が関心を持っていたりします。暮らしや生活の延長で

	は女性でもできますが、耐震化などは高齢女性一人ではできません。誰にどの情報を啓発するのかマッピングが大事だと思います。
防災危機管理室	資料の 24 ページにあるように、自宅や職場、よく行く場所等の危険性をハザードマップで確認しているかの質問では、確認している人の割合が 49%と倉敷市はかなり高い。
会長	回答者の年齢層別や性別でどのように見えてくるか。
委員	ハザードマップは、広報誌に差し込まれて配布されています。今、家を建てて来られる方は、広報誌を取っていません。
防災危機管理室	転入者へはハザードマップは配っていませんが、二次元バーコードを配布しています。元々住んでいた所へ新しく建てる方へは届きませんが、転入された方にはチラシを配って啓発をしています。
委員	若い人はスマートフォンで何でもできるので良いことだと思います。高齢の方で町内会や組合を脱会される方も多くなってきています。そういう方には広報誌が届かないので、ハザードマップも届かない。取りに行くしかないなので、街の中心部を外れるとハザードマップを見たことがない人が多いのではないかと思います。
委員	資料にも防災士の育成についての報告がありますが、今年の防災士養成講座は決まっていますか？
防災危機管理室	今年は日付は決まっていますが、広報誌にも掲載予定です。
委員	たくさんの方に取得していただくのも大事ですが、認定を受けたら終わりではないので、新しいことを勉強していくために防災士の会も活動しています。後程話があると思いますが、倉敷市市民企画提案事業に登録させていただき、補助を受けて活動しています。防災士を取得された方、防災士の会には入っていないけれども防災士を持たれている方、町内会で自主防災組織を作ってみたい方、作ってみただけそのあと何をすればよいか分からない方にもメッセージを伝えていく活動をしています。ラジオの事や雨水タンクのこと、活動の中に入れていきたいと思っています。
防災危機管理室	防災士の会の方には、防災フェアへの協力や、出前授業へ一緒に来ていただいています。市職員だけでは圧力を感じる方もおられるので、地元の防災士の方に同席していただければ円満に進むということもあります。
副会長	防災士の方に活躍していただくために、市の職員の方が頑張られてる所を防災士の方に任せるのが良いのではというのが私の感触です。資料の 25 ページにも、年間 100 件も出前講座とか訓練を実施した件数が報告されていますので、防災士の方の活躍の場ができれば良いのではと思っています。 参考までに、東日本大震災で被災した自治体に対して、発災前に、講座ではなく訓

練を何度していたかを調査しました。人口6万人くらいの自治体で1年間に45回訓練をしていたと回答がありました。45回といえば、正月を除いた全部の土日になります。それほど訓練していても東日本大震災ではあの被害ですから、実践的な訓練が非常に大事だと思います。実際に訓練に来てもらえると、雨水タンクや緑化の話について、普及啓発のためのコミュニケーションも取りやすいと思います。

また、地区防災計画の取り組みの数ですが、現状で素案作成中が28件と報告がありました。私は数としては決して少なくないと思っています。内閣府で年1回全国の自治体に調査していますが、その中でも岡山県は少なくはないですし、岡山県内でも130件くらいなので、倉敷市でこれだけの取り組みをされているのは、防災士の皆さんが頑張っておられるという印象です。

(2) 令和6年度の実施予定について

事務局と防災危機管理室より、令和6年度の実施予定を報告。

会 長 | 真備ふれあい公園で予定されている次回の防災フェアでも、協議会の取り組みを紹介したいと思っていますので、ブースの確保をお願いします。パネル等も見直したいと思っています。

(3) 市民企画提案事業について

事務局より、市民企画提案事業の内容を説明。

会 長 | ヒント出しだけではなく応募したい。審査は協議会でバックアップしていきたい。

副 会 長 | この資料で防災推進課となっているところに、浸水対策室を追加するということですか？

事 務 局 | テーマを挙げていただき、そのテーマであれば市のどの部署が担当するかを市の内部で決めていきます。

副 会 長 | 雨水貯留を共助の力で面的に進めていくのは流域治水の観点でも大事だと思います。住民だけでなく企業とも一緒に雨水貯留を進めていくというのができたらよい。これは応募する団体としては研究室でも良いのですか？

事 務 局 | 要件があるので、適合するか見ていく必要があります。

会 長 | こういう制度があるので活用して、ソフト対策をサポートしていきたい。

事 務 局 | 協議会の中で出た意見で、報告すべき案件は市長へも報告していきますが、事業としてはこういう制度もあるということで今回紹介しています。

委 員 | 人口減少や市町村合併で行政職員が少なくなった中で、地域協働などの声が出て

きています。一方では、市民の皆様もこれまでは民生委員を含めてボランティアで活動されていた所について、担い手が少なくなってきたという課題もあります。行政での対策だけでは限界があって市民と一緒にやるべきことは多いと思います。お金にならない課題や、委託ができていない課題は取り残されています。どこまでボランティアでやるべきかという事が起きています。倉敷市に企画提案事業が地域協働の政策の中にあるということに驚いています。何か問題を解決しようという動きがあっても、委託業者だけが活動していて、そこに住んでいる人が参加していないと活動が続かないから、市内在住者が要件の中に入っているのだと思います。この事業を生かさない手はないと思います。倉敷の非営利団体と倉敷市内に活動をしたことがあったのですが、倉敷にこの事業があるのを知らなかったのが、広島チャレンジ制度を利用して、広島県に提出したことがありました。

会 長 | この事業の活用により、市民が企画したら活動も少し違う視点が入ってくる。それが市役所のサポートと繋がって、浸透していくことで、活動が市民に浸透していけば良いと考えています。令和6年度もありますよね？

事 務 局 | 令和6年度に行う事業が、今資料として配布しているものです。やるならば令和7年度に開始する事業に令和6年度中に応募することになります。

副 会 長 | 今回の資料にある事業は採択されたものですか？

会 長 | 令和6年度行う事業として採択されたもので、ここに防災士の会が応募します。

委 員 | 田んぼダムや雨水タンクなど、基本計画の行動主体で市民に〇がついている取り組みは、狭いところから活動が始まって、倉敷市ではこういうことをしているのかという文化になっていく話だと思います。防災については、すでに出前講座の目標件数に対してこれだけされている。これ以上増やすとなると、市の職員の方の休日を犠牲にすることになるので、防災士の活躍に期待することになります。防災士の資格を取得した後のフォローアップがないと、防災士のリーダー講座だけでは出前講座を実施できるスキルは難しい部分もあります。防災の課題はどんどん新しい課題が出てくるので、フォローアップ講座は良いと思います。

事 務 局 | こういうことができるという話をいただいた後に、テーマをどうするのか考える方が良いのではないかと思います。

会 長 | 委員の皆様が普段思われていることで、市役所で補助してもらえたらもっと頑張れるという話がありましたら、協議会でバックアップしていきたいので、アイデアを募集します。いずれはソフト対策は市民にバトンタッチして自助共助を考えていく時代になっていくと思っています。そういう時代の試金石になれば良いと思っています。

4 閉会

事務局 | 本日はお忙しい中、御議論いただきましてありがとうございます。本日いただいた御意見等を参考にして、基本計画に基づく活動に取り組み、また、市民の皆様に広く計画の内容を知っていただけるよう努めて参りたいと思います。
本日はありがとうございました。

令和 6 年 6 月 12 日

議事録署名委員 小山 節子

議事録署名委員 磯打 千雅子